

自転車駐車場工業会のプレゼンテーションも実施 平成28年度 全国自転車問題自治体連絡協議会 全日本研修会を仙台で開催

去る10月27日～28日、仙台市において平成28年度 全国自転車問題自治体連絡協議会・全日本研修会が開催された。初日のメイン講演は自転車駐車場工業会が担当し、同工業会の取り組み、とりわけ新たに策定されたサイクルラック等技術基準に関する説明が行われた。両日の模様(スピーチは要約・再構成)をレポートする。

主催者挨拶

自転車に関するルールや マナーの啓発活動も重要に

全国自転車問題自治体連絡協議会
会長 千代田区長 石川雅己 氏
(メッセージ代読：千代田区 環境まちづくり部長 細越正明氏)

「本日はご多忙のところ全日本研修会に全国からお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より本協議会の活動にご理解、ご協力を賜り、重ねて深く感謝申し上げます。

さて、全日本研修会につきましては、全国の会員自治体による自転車問題解決に向けた継続的な取り組みとして、平成4年の本協議会設立以来、欠かさず開催しております。この間、会員の皆様による自転車駐車場の整備や放置自転車の撤去など、放置自転車対策の取り組みにより全国の駅周辺の放置自転車は、全体として減少傾向にあります。

一方で、自転車は人にやさしい乗り物であり、健康増進にもつながり、さらには国内外から訪れる方々の移動手段として活用されるという観光的側面でも期待でき、行政としても、シェ

アサイクルの普及活用など、今後ますます自転車利用の促進を図っていく必要があると認識しています。

このような状況下、近年、自転車による事故が増加しており、自転車の走行環境の整備、自転車運転のルールやマナーの普及啓発など、新たな課題も顕在化しています。

これまで本協議会では、自転車問題の抜本的な解決を図るため、自転車法改正による鉄道事業者への自転車駐車場の附置義務化や、自治体が自転車の走行環境整備に柔軟に取り組める環境の創出などを、国などに要望してまいりました。

今後も、自転車対策に取り組む自治体の意向に沿った自転車法の改正を強く求めるとともに、自転車に関わる全ての方々と連携協働し、自転車問題の解決を図るべく精力的に活動していく所存であります。」



千代田区 環境まちづくり部長 細越正明氏

開催者挨拶



まちの賑わいの創出に 努めていく

仙台市 建設局 次長兼道路部長
小高 睦 氏

「皆様、はるばるお越しいただきありがとうございます。心より歓迎いたします。

東日本大震災より5年7カ月が経ちました。これまで最優先課題であった住宅再建については概ね完了が見通せる状況とな

りました。皆様には各分野で様々なご支援を賜り、大変ありがとうございました。

さて、仙台市では市内2線目の地下鉄である東西線の開業を契機に、都市の楽しさを象徴するまちづくりに取り組んでいます。駅周辺のまちづくりの一環として、駐輪場を13箇所設置する計画であり、地下駐輪場は自転車・バイクを合わせて約1,400台の収容能力を有しています。まちの中心部の放置自転車対策の切り札になると考えています。

また、現在、車線を縮小して歩行空間を確保するなど、新たな賑わいの創出を目指し、再整備を進めています。」



初日の研修会会場。各登壇者には講演後にいくつもの質問が寄せられるなど、熱気に溢れた盛会となった

講演

一般社団法人 自転車駐車場工業会 「自転車駐車場工業会の活動について」

今回の研修会では、自転車駐車場工業会による講演が行われた。①同工業会の内田 勉理事長による挨拶、②そして広報部会・久野木聡委員長の本講演の趣旨説明に続き、③メインスピーカーとして同部会・ブランディング委員長を務める本誌編集長・山本が登壇。同工業会の取り組みについてプレゼンを行った。

詳細は次ページに

事例発表

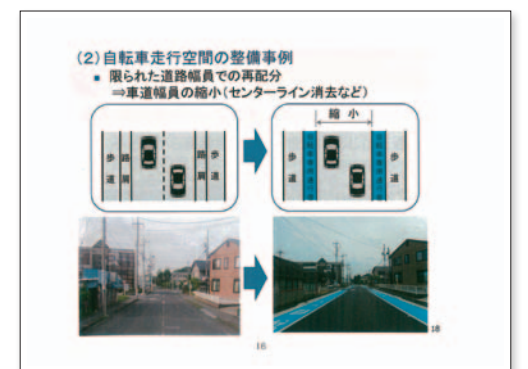
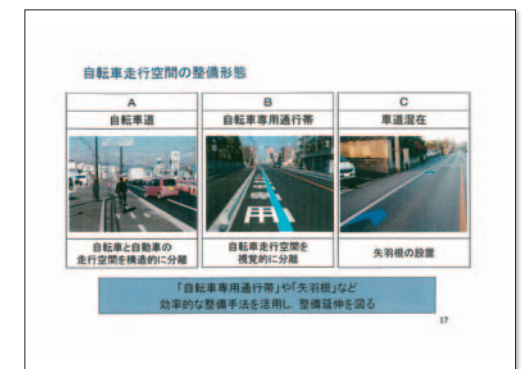
「宇都宮市自転車のまち推進計画」 だれもが自転車で“つながる” 自転車のまち宇都宮

宇都宮市役所 建設部 道路建設課 田崎和則 氏

「宇都宮市にとって自転車は、今では「餃子」「カクテル」「ジャズ」「大谷石」に続く観光資源として位置付けられています。市街地を中心に平坦な地形で雨が少なく、冬季の日照時間が長いといった地理的適性に加え、3環状・12放射道路の整備による道路環境も、自転車利用に適しているといえます。

「ジャパンカップサイクルロードレース」や地元のプロロードレースチーム「宇都宮ブリッツェン」の人気は、宇都宮市に自転車文化が根付いている具体例として挙げることができます。

平成22年には「自転車のまち推進計画」が策定され、自転車を活かしたまちづくりが進められていて、それが現在の自転車専用通行帯や矢羽根表示などを含む自転車走行空間整備に繋がっています。限られた道路幅員で



一般社団法人 自転車駐車場工業会
広報部会 ブランディング委員長 山本 稔 (本誌編集長)

自転車駐車場は、地域のたくさんの方が毎日のように接する施設であることから、「安全」が何よりも求められます。それに応えるため、業界として確かな技術基準を設定し「安心」を提供することが大切であると考えています。工業会には設備メーカーだけでなく、自転車駐車場運営会社も多く加盟しているため、各々の立場から意見交換を行い、設備機器そのものや、それを用いた管理運営のクオリティ向上に努めています。

施設見学会



「このように、確かな基準の製品を提供することで、利用される方に安心していただけること。この利用者様との信頼関係こそが、当工業会が提供できる最大のものだと考えております。今後、駐車場機器の導入にあたっては、当工業会の技術認定を取得した機器をお選びいただければと思います。」

